



※学・Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

全国学力・学習状況調査&みえスタディ・チェックを活用することで、「できなかった」ところを「できる」ようにする取組を進めましょう!!

4月は小6、中3を対象に全国学力・学習状況調査と、小4・小5、中1・中2を対象にみえスタディ・チェックが行われます。これらを活用して、各学年での学習内容の理解・定着状況を把握し、「できなかった」ところを「できる」ようにする取組や授業改善を進めましょう。

「できなかった」ところを「できる」ようにするために

- ◆ 全国学調やみえスタディ・チェックの自校採点を行い、「できているところ」「できなかったところ」を把握・分析し、何年生のどの内容でつまづいているのかを学校全体で共有しましょう。
- ◆ 明らかになった子どもたちの課題に対応したワークシートなどを活用し、授業や朝の学習、補充学習、家庭学習等の活用場面で、年間を通じて組織的、計画的に「できる」ようにする取組や早期からの授業改善を進めましょう。
- ◆ その取組により、子どもたちがどれだけ「できる」ようになったか、学習内容の定着を確認しましょう。

どれだけ「できる」ようになりましたか？

第2回みえスタディ・チェックで改善が図られていない設問

<小学校国語>

- 次の1と2の文の主語として適切なものを、アからエまでの中からそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましょう。

わたしが 育てた 花が 咲いた。
ア イ ウ エ

平成30年度第2回 54.7% (過去からの改善状況：-0.9ポイント)

<中学校国語>

- 「心を打たれた」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

平成30年度第2回 23.0% (過去からの改善状況：+2.9ポイント)

<小学校算数>

- 答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を、4つの選択肢の中から全て選ぶ設問

平成30年度第2回 27.6% (過去からの改善状況：-9.3ポイント)

<小学校算数>

- 次の計算をしましょう。
・ $6 + 0.5 \times 2$

平成30年度第2回 62.3% (過去からの改善状況：-0.9ポイント)

<中学校数学>

- 体力テストの合計の度数分布表で、に当てはまる相対度数を求める式を答えなさい。

階級(点)	420分未満		420分以上	
	度数(人)	相対度数	度数(人)	相対度数
以上 未満				
10~20	1	0.02	0	0.00
20~30	6	0.10	1	0.01
30~40	18	0.30	6	0.07
40~50	21	0.35	19	0.22
50~60	11	0.18	33	<input type="text" value="ア"/>
60~70	3	0.05	23	<input type="text"/>
70~80	0	0.00	3	<input type="text"/>
合計	60	1.00	85	1.00

平成30年度第2回 41.4% (過去からの改善状況：-1.0ポイント)

<中学校数学>

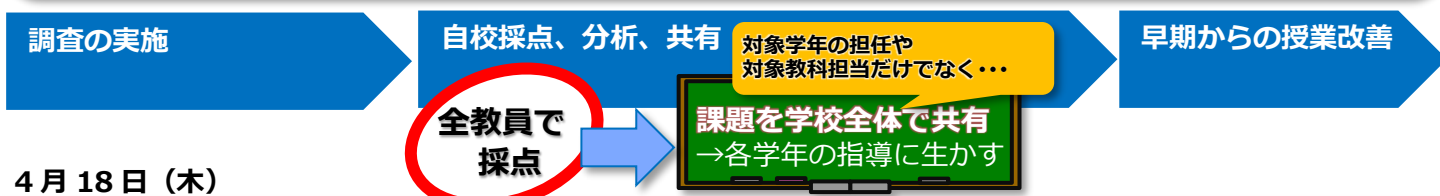
- 次の計算をしましょう。

$$\frac{2}{5} \div 0.6$$

平成30年度第2回 60.6%
(過去からの改善状況：-6.1ポイント)

学習内容の定着の確認が大切です。

● 学校における全国学調、みえスタディ・チェックを活用した取組モデル ●



4月18日(木)

2019(平成31)年度
全国学力・学習状況調査

- ◆ 対象学年：小学校第6学年
中学校第3学年
- ◆ 調査内容：国語、算数・数学、
英語(中学校)、質問紙

文部科学省へ送付する前に解答用紙をコピー
(英語「話すこと」調査【保存用】のUSB
メモリのコピーも忘れずに！)

自校採点の実施

- ・「解説資料」を参考に採点し、解答類型を判断
- ・自校採点結果の設問別状況から、どの内容で
つまづいているのかを分析

全国学力・学習状況調査

自校採点研修会を開催します。

- 4月25日(木) 県総合教育センター
- 4月26日(金) 県四日市・伊勢・尾鷲庁舎
- 採点を通して、学習指導要領の趣旨・内容を
ふまえた授業改善につなげましょう。

集計結果の入力

入力すると、自校の
学力状況をリアルタイムに把握・分析で
きます。授業改善に
活用してください。



4月18日(木)：基準日

2019(平成31)年度
第1回
みえスタディ・チェック

- ◆ 対象学年：小学校第4・5学年
中学校第1・2学年
- ◆ 実施教科：国語、算数・数学、
理科

自校採点の実施

- ・「教師用解説資料」に従って採点し、解答
類型を判断
- ・解答類型を解答用紙の所定の欄に記入
- ・自校採点結果の設問別状況から、どの内容
でつまづいているのかを分析

集計結果の報告
(5月31日までに)

「授業改善サイクル
支援ネット」に
入力します。

● 2019(平成31)年度全国学力・学習状況調査の実施にむけて ●

子どもたちが持てる力を精一杯発揮できるよう、下記のマニュアルで実施体制等を整備・確認し、円滑な実施をお願いします。

- 2019(平成31)年度 調査マニュアル
- 調査マニュアル【教室監督者用】
- 【「話すこと」調査担当者用】(中学校のみ)
- 調査環境設定マニュアル(中学校のみ)



国語、算数・数学の調査時間は、
小学校45分、中学校50分に変更されます。

調査(実施)前

- ★最後まであきらめずに、がんばって解答すること
- ★計算や下書き等は問題用紙に書き込んでかまわないこと
- ★中学校英語「聞くこと、読むこと、書くこと」調査は調査用CDを再生する形で進行すること
- ★中学校英語「話すこと」調査は、PC室等で実施すること

調査(実施)中の確認

- ★問題用紙に解答(回答)を記入している児童生徒がいた場合は、
解答(回答)用紙に記入するよう指示してください。
- ★解答(回答)欄の場所を間違えずに記入しているかを確認し、適宜、指示してください。
- ★解答をあきらめているような児童生徒には、できるところから
解答を試みるよう、適宜、指導してください。

小学校調査では、
「個人番号シールの貼付」
が必要です。
調査マニュアル【教室監督者用】
P.9~11 参照

効果的な少人数指導の実施に向けて ～「効果的な少人数指導推進ガイドブック vol.2」を配信しました～

平成 30 年度「わかる授業」確かな実践事業の実践推進校において、ティーム・ティーチング（以下「TT」という。）では、授業における教員の役割分担、習熟度別指導では、教員の経験や教科、単元の特性を踏まえた指導形態や指導の工夫について実践研究を進めてきました。

その取組の検証を行ったところ、実践推進校では次のような工夫がなされていました。

成果につながった少人数指導の工夫例 （実践推進校の成果報告から）

TT

- T1 と T2 はどちらも主担当であることを意識している。
- T1 と T2 の双方が、指導に対して明確な意図を持っている。
- 深い学びを促すために、役割分担の中で T2 が適切に子どもへの働きかけをおこなっている。
- 例) ・T1 の主発問に対して、子どもの側に立った補助発問を行う。
 - ・子どもの発言に対して、切り返しの発問を行う。
 - ・異なる視点からの補助発問を行う。
- T1 と T2 でエリアや課題別に分けて、意図的に机間指導を行っている。



習熟度

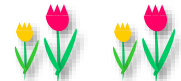
- 教員の経験差を補うための工夫をしている。
- 例) 経験が豊富な教員が単元構想と大まかな授業の流れを考え、それをもとに各コースの担当が習熟の違いに応じた指導を行うなどの工夫をしている。
- 基礎コース
 - ・基礎的、基本的な学習内容を確認する時間を十分に確保したり、具体物の操作や視覚支援を多く取り入れたりしている。
- 発展コース
 - ・個人で考える時間を十分に確保したり、発展問題に多く取り組ませたりしている。

平成 30 年度の実践推進校の実践研究で得られた効果と課題を踏まえ、より効果が見られた学校の取組を実践事例として「効果的な少人数指導推進ガイドブック vol.2」にまとめました。（平成 31 年 3 月提供）

平成 30 年 3 月に作成した「効果的な少人数指導推進ガイドブック」とあわせて活用し、子ども一人ひとりが「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できるよう、少人数指導に取り組んでいきましょう。

※これらのガイドブックは、「授業改善サイクル支援ネット」の「お知らせ」からダウンロードできます。

ガイドブックでは学校での実践事例を紹介しています。



各校の取組で特に参考にしたい点を記載。

ガイドブック vol.2 の構成

- 第 1 章 平成 30 年度の実践推進校の取組
- 第 2 章 効果的な少人数指導の進め方
 - 1 ティーム・ティーチングの進め方
 - 2 習熟度別少人数指導の進め方
- 第 3 章 効果的な少人数指導の実践事例
 - 1 小学校国語ティーム・ティーチング
 - 伊勢市立豊浜西小学校
 - 伊賀市立友生小学校
 - 2 小学校理科ティーム・ティーチング
 - 松阪市立山室山小学校
 - 名張市立すずらん台小学校
 - 3 小学校算数習熟度別少人数指導
 - 菰野町立竹永小学校
 - 南伊勢町立南勢小学校
 - 四日市市立八郷小学校
 - 津市立雲出小学校
 - 4 中学校数学習熟度別少人数指導
 - 熊野市立有馬中学校
 - 亀山市立中部中学校

「参考にしたい点」に焦点を絞った具体的な取組内容を掲載。

学習の流れや分析例なども掲載。

【亀山市立中部中学校】

参考にしたい点

- 経験が豊富な教員を基礎コースと標準コースに配置している。
- みえスタディ・チェックなどの結果から、単元によってコースの内訳を変えている。

教員の配置

- 基礎コース：きめ細かな指導をするため、1 年時から数学を担当している 2 年生担任。
- 標準コース：子どもの理解度がさまざまであるため、経験が豊富な教員。
- 発展コース：経験が浅い非常勤の教員。

各コースの進め方

- 基礎コース
 - ・グループ活動を通して自ら問題に取り組めるような場面を設定する。
 - ・具体物や図を使って説明させる。
 - ・計算部分は 1 年生の復習をしながら、2 年生の新しい計算方法もできるようにする。
- 標準コース
 - ・類似問題や関連する問題に取り組ませる。
 - ・グループや周りの友だちと相談する機会を多く取り入れる。
 - ・図を利用しながら視覚的に考えさせ、解き方をイメージさせる。
- 発展コース
 - ・応用問題や記述式の問題に多く取り組ませる。
 - ・ミスなくするために練習問題にも多く取り組ませる。

【例】 連立方程式「連立方程式の解き方」（第 2 学年）

基礎コース	標準コース	発展コース
【めあて】 二つの二元一次方程式の解を計算で求める。	【めあて】 連立方程式の解を計算で求める。	【めあて】 加減法の解き方の流れを知る。
①「加減法」について、「加」や「減」の文字からイメージする。	①「加減法」と聞いて何をイメージするか考える。	①「加減法」と聞いて何をイメージするか考える。
②練習について、図を使いながら説明する。	②練習について考える。	②練習について考える。
【問題】 $\begin{cases} 3x + 2y = 540 \\ x + 2y = 380 \end{cases}$ を解いてみよう。	【問題】 $\begin{cases} 3x + 2y = 540 \\ x + 2y = 380 \end{cases}$ を解いてみよう。	【問題】 $\begin{cases} 3x + 2y = 540 \\ x + 2y = 380 \end{cases}$ を解いてみよう。
・ x をみかん 1 個の値段、y をりんご 1 個の値段として、それぞれ図を書いてみる。 ・図を見ながら、みかん 1 個の値段 (x) を考えてみる。 ・実際にみかん 1 個の値段 (x) を求めてみる。 ・図から、x と y を使った式で表しながら連立方程式を解く。	・ x をみかん 1 個の値段、y をりんご 1 個の値段として、それぞれ図を書いてみる。 ・図を見ながら、みかんとりんご 1 個の値段を考える。 ・図で答えを確認する。 ・図から、x と y を使った式で表しながら連立方程式を解く。	・ x をみかん 1 個の値段、y をりんご 1 個の値段として、それぞれ図を書いてみる。 ・図を見ながら、みかんとりんご 1 個の値段を考える。 ・図で答えを確認する。 ・図から、x と y を使った式で表しながら連立方程式の流れを作る。

2019(平成31)年度 三重県総合教育センター実施研修講座

県総合教育センターでは、子どもたちの学力向上に向け、研修講座を実施しています。今回は、国語・算数・数学、特別の教科 道徳、プログラミング教育に関する講座を紹介します。ぜひ、自らの授業改善にご活用ください。

【国語・算数・数学の研修講座】

- [講座名]授業づくり(小学校国語) 8月7日(水) (講師)大妻女子大学 准教授 樺山 敏郎
(ねらい) 講義・演習をとおして、文章を読み解く力や伝える力など、付けたい力を明確にし、子どもたちの深い学びを引き出す授業づくりの基本について研修します。
- [講座名]授業づくり(中高国語) 8月9日(金) (講師)京都教育大学 教授 植山 俊宏
(ねらい) 子どもたちの言語感覚を磨き、発達段階や習熟度に応じてどのような言語活動を設定するのかなど、主体的な学びを引き出す授業づくりの基本について研修します。
- [講座名]授業力向上研修(小学校国語) 8月8日(木) (講師)三重大学 教授 守田 庸一
(ねらい) 全国学力・学習状況調査等の結果で明らかになった課題を踏まえ、知識及び技能や、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、思考力、判断力、表現力等を育成するための実践的指導法など、創意工夫を凝らした授業のあり方について研修します。
- [講座名]授業づくり(小学校算数) 8月26日(月) (講師)筑波大学附属小学校 教諭 山本 良和
(ねらい) 算数のおもしろさ、学ぶ楽しさに気付き、自ら学習に向かう姿勢を引き出す授業づくりについて研修します。
- [講座名]授業づくり(中高数学) 8月5日(月) (講師)名城大学 教授 竹内 英人
(ねらい) 子どもたちの「なぜ」という知的好奇心を大切に、論理的、統合的・発展的に考察することをおして数学のよさを実感させ、子どもたちの発達段階や習熟度に応じた主体的な学びを引き出す授業づくりの基本について研修します。
- [講座名]授業力向上研修(小学校算数) 8月22日(木) (講師)県教育委員会事務局 指導主事・研修主事
(ねらい) 全国学力・学習状況調査等の結果で明らかになった課題を踏まえ、ねらいを明確にした問題作成や協議をとおして、子どもたちの発達段階や習熟度に合わせ、数学的活動を重視した質の高い深い学びにつながる指導の工夫について研修します。

【特別の教科 道徳の研修講座】

- [講座名]中学校道徳 6月27日(木) (講師)岐阜聖徳学園大学 非常勤講師 河合 宣昌
(三重県道徳教育アドバイザー)
(ねらい) 「考え、議論する道徳」への転換に向けた授業の基本と評価方法のあり方について研修します。
- [講座名]授業づくり(道徳) 8月6日(火) (講師)四天王寺大学 教授 杉中 康平
(ねらい) 道徳科の特質を生かした授業づくりについて研修し、授業力の向上をめざします。



【プログラミング教育】

子どもたちが将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」の育成が求められています。県教育委員会では、プログラミング教育に関する研修を実施しています。この講座は、市町等教育委員会を通じて申し込むことになります。

【講座名】プログラミング指導者育成研修(全5回)

(ねらい) プログラミング教育の概要などを学ぶ講義や各種プログラミング教材を体験的に学ぶ演習等を実施し、各市町等において、プログラミング教育を推進していく指導者を育成します。

【講座名】ICT活用指導力向上講習会

(ねらい) 「情報モラル」、「情報セキュリティ」、「協働活動におけるICT活用」、「プログラミング教育」に関する講義・演習を実施し、教員のICT指導力の向上を目指します。

学校や地域にしながら学びたい!

学校や地域の課題に応じた研修をしたい!

授業改善につながる研修をしたい!

*** 出前研修のご案内 *** 研修主事が学校や地域に出向いてニーズに応じた研修を実施します!

<研修プラン>

●校内研修推進出前研修 授業研究等で大切にしたいポイントが学べます!

- ・授業改善につながる校内研修
- ・『主体的・対話的で深い学び』の実現

●活用力を育む問題づくり出前研修 活用力を育む問題づくりの手法が学べます!

- ・国語の問題づくり
- ・算数の問題づくり

●学校マネジメント出前研修 よりよい学校づくりのポイントが学べます!

●カリキュラム・マネジメント出前研修 カリキュラム・マネジメントを推進するためのポイントが学べます!

*お問合せは、研修企画・支援課 企画・支援班まで (TEL:059-226-3428)

